

## 2021年度理事長候補者 決定



### 【基本理念】

勇気凛々

### 【スローガン】

機に臨み変に応ず

### 【基本方針】

1. 不易流行の組織改革が導く燃々盡々の組織づくり
2. 型を知り型を破る守破離実現の人材育成
3. 真善美が惹き起こす正射必中の会員拡大
4. 子どもたちと地域をつなぐ郷土愛
5. 距離も世代も超えた絆の涵養

### プロフィール

*profile*

名前：小山田 允紀  
 (おやまだ まさのり)  
 生年月日：1982年10月15日  
 勤務先：(株)小山田建設  
 役職：取締役建築部長  
 趣味：弓道、バイク、スキー、  
 ハワイ

### 弘前青年会議所における履歴

2014年：入会 (MUSUBIME委員会)  
 2015年：CheerUP!HIROSAKI委員会 委員長  
 2016年：事務局長  
 2017年：Active Support委員会 副理事長  
 2018年：専務理事  
 2019年：子供たちの夢創造委員会 副理事長  
 2020年：SJGs検討委員会 副理事長

### 第104回通常総会及びOB現役交流会

8月18日(火) ホテルニューキャッスルにて第104回通常総会及び土手町コミュニティーパークにてOB現役交流会を実施致しました。通常総会では、2021年度理事候補者に加え、理事長候補者として小山田允紀君、監事候補者として比内理佑君が満場一致にて可決承認されました。またOB現役交流会では多くの先輩方と交流を深め2021年度弘前青年会議所創立70周年に向け、新たな気持ちでスタートを切ることが出来ました。



# 理事長対談 理事長と次年度理事長候補者



第71代理事長候補者  
小山田 允紀

第70代理事長  
比内 理佑

Q1：まず、比内理事長にお伺いします。今年度も残すところあと2か月となりましたが、振り返ってみると、どんな1年だったでしょうか？

(比内) 振り返ると変化のとても激しい年だったと思います。ご存知の通りコロナウイルスの影響で大きく環境は変わりました。

理事長として掲げた所信の中に、日々変化が激しくなる中で私たちが今何をすべきなのか、どんな方向に向かうべきか、という想いを込めさせていただきましたが、まさに私たち青年会議所の存在意義や価値が問われる1年だったと感じています。

年初より大まかな方向性だけ示し、出来るだけ制限をしないで進めたい、と心掛けておりましたが、委員会の皆が環境の変化を受けて、当初描いた内容から手法を変えて、または別の課題を見出して挑戦してくれたことがとても嬉しかったです。

Q2：続けて比内理事長にお伺い致します。本年度はコロナウイルスで本当に多くの影響を受けました。

年度当初と現在を比較した時、ご自身の中で大きく変化したこと、弘前JCが変化したことは何だと思われますか？

(比内) 私個人としては例年では出来ない経験、機会を多くいただき、相応に変化、成長できたかなと思います。

ただ意識的に変えなかったところもあり、先程の回答の中に関連しているなら、私が今こういう状況だからこの事業をやってほしい、と進めることで私がやりたかった挑戦は出来たかもしれませんが、それでは今年得られた、委員長を始め多くの会員の成長の機会はずっと少なかったと考えています。

また、弘前JCは青年会議所の中で比較すると、実は変化への対応力の強い青年会議所です。

毎年の継続事業は少なく、見定めた課題を解決するために新しいことを創り出すことが得意な組織です。

コロナウイルス対策としてのWEB対応や三密回避を始め、運営や事業の手法など表面的なことは変化しましたが、青年会議所としてやるべきこと、弘前JCの本質的なこと

は変化していないと思います。

Q3：続いて小山田次年度理事長候補者にお伺いします。すでに2021年度が動き出していますが、次年度理事長候補者として今、どのようなお気持ちですか？

(小山田) 弘前青年会議所が70年燈々無尽と紡いできた運動を引き継ぎ、LOMを導いて、地域により良い変化を起こすことが出来るのだろうか、大きな責任を感じています。しかしながら、21年度の理事役員は、これまで私を支えて頂いた心強いメンバーばかりですので、安心して進めて行きたいと思っています。

Q4：続けて小山田次年度理事長候補者にお伺いします。基本理念を「勇気凛々」とされていますが、どのような想いで決定されたのでしょうか。

(小山田) 社会は今すごく変化しているので、昨日と同じことや去年と同じことをやっても恐らく現状維持すら難しく、衰退消滅に向かってしまうと思います。

何か新しいことを始めようとか、より難しい事にチャレンジしようとか、今までずっと当たり前やって来た事を変えたりやめたりする際にやはり必要なのが、「元気」「やる気」「勇気」であると思います。これは社業においてもJCにおいてもやはり凛々とした勇気を持って進んで行かなければならない。

そう言った思いから勇気凛々という理念を掲げさせて頂きました。

Q5：お二人にお伺いいたします。このコロナ禍において、弘前青年会議所の果たすべき役割はどのようなものだと考えていますか？

(比内) コロナ禍だからと言って青年会議所が果たすべき役割は変わらないと思います。

私たち青年会議所は住み暮らす地域において、地域の未来のことを考えて今ある課題を解決していく、自分たちから率先して、積極的に取り組んでいく事に意味と価値があると私は考えています。

コロナ禍で環境は確かに変わりましたが、しかしそれでもこれから先をより良いものに変えていく為に、方向は子供たちの為や経済文化の発展など様々ありますが、今抱える課

題をみんなで解決していく、人々に影響を与え、世の中を変えていく為に行動することが青年会議所の役割、価値だと思います。

またその方法や手段のひとつとして、私たち自身が成長することもすごく大事です。まとめる「まちづくり」と「ひとづくり」ですね。(小山田) コロナに対してはしっかりと耐えること、耐え切ることが大事だと思います。しかし耐えるだけで消耗してしまっただけで、耐えて生き残る知恵や術を考えていかなければなりません。

思考を停止して、根拠のない大丈夫で、中途半端に緩い事をして、感染を広げてしまっただけです。

弘前でのコロナ感染者ゼロが続き、自分たちは大丈夫、こちらはあまり関係ないという緩みが、今回の感染拡大を招いてしまったのではないのでしょうか。

やはり危機感をもってしっかりと耐え切ることだと思います。

Q6：続けてお二人にお伺いいたします。創立70周年を迎える2021年度、弘前青年会議所では特に何をすべきだとお考えですか？

(小山田) まずは人材育成。型を知り型を破る「守破離」実現の人財育成と基本方針に掲げているのですが、70年も続いているJCにおいて単年度制という一年で体制変わる制度が悪さをしている気がしています。あくまで単年度制を否定しているのではなく、やはり入会暦が短い人が多くなってきた事もあり、一年間の積み重ねがまたゼロにリセットされて次年度が始まっている感じがします。

毎年毎年アップデートし続けていくために、人材育成をしっかりやっていかなければならないと考えます。

また、地域に変化を与えるためには、地域に変化をもたらす事が出来るだけの知識と経験を我々が持たなければ、地域を変えるなんておこがましいと思います。

そういった意味でも私たちがもっと経験値を積んでいかなければならないというなかで、組織改革もまた弘前JCには必要であると考えています。

公益社団法人は公益比率50%を維持しなければなりません。今2021年度予算組み

# 理事長対談 理事長と次年度理事長候補者



をしていても、やはり人財育成に予算を掛けることが難しくなっています。

地域の課題を捉え意義目的に沿った事業を構築するというよりも、公益比率を確保するために多額の費用を掛ける事業手法を検討することから始まり、不足する予算の確保が活動のメインとなってしまうような状況さえおきています。

比内理事長がおっしゃるとおり、JCとして変わらないところ、本筋は変えてはならないですが、環境に応じて変化するところは変化して時代に即していかなければならないと思います。

JCは地域の課題を解決していく団体ですので、地域の課題が無くなる時まで存在していかなければなりません。

いえ、地域の課題が無くなることなんてないでしょうから、そういったところにJCが寄り添って行くためには、持続可能な団体でなければなりません。

今70周年を機に私が考えるのは、人材育成と組織強化であると思います。

**(比内)** 小山田次年度理事長候補者が今お話しされたことは、公益社団法人になって特に近年、ここ5年くらいの理事長はみんな考えていた事だと思います。

おそらく理事長以外に専務理事や財政を始め理事関係を何回か経験された方々も同じではないでしょうか。

私たちがすべきこと、やりたいことを考える際に団体として制限を受けている現状は望ましい環境なのか、と考えられる一方で、安易に法人格を変えるのではなく、各種助成金や補助金を活用すること、そもそも経済人の集まりなので稼げば良いなど様々な回答が出てきます。

こだわべきは方法や手段ではなく意義と目的であるからこそ、必要であれば組織改革をするべきで、私たちはそれが出来る組織であるはずで。

そして迎える70周年が私たち弘前青年会議所にとってどんな価値があるのかと考えるとき、その方向は過去ではなく、未来を向くべきです。

今私たちが弘前青年会議所の名前で行政や企業、団体や個人をパートナーとして活動できるのは、先輩諸兄が紡いでこられ、築き上げられてきた想いや実績という無形の資産があるからでしょう。

しかしながら、私たちがすべきことはその資産の保全ではなく、活用です。

ひとつのきっかけ、節目、タイミング、それこそ意義と目的、方法と手段で言うと、方法や手段として活用すべきなのが70周年であると私は捉えています。

具体的にどう活用するかに関しては、小山田次年度候補者と共に2021年度進んでいく

のですが、70周年というひとつの機会を最大限活用し、弘前青年会議所をより持続可能なものにする、より運動・活動の効果を高める、会員拡大であったり情報発信であったり、これまでの実績をこれから先のために生かしていく、そういったことが70周年というタイミングなのではないかと思います。

だからこそこのコロナ禍というままでとは異なる、世界が、日本が、弘前という地域が影響を受けている中で私たちが何かをするべき時に70周年と言うタイミングが来ていることに、もしかしたら運命的な、今これを使えばいいよと言ってくれているような縁を感じています。

長くなりましたが、率直に表現すると70周年を最大限活用して「何か」行動するべきです。「何か」を決めるのは2021年度の私たちです。

**Q7:**次に比内理事長へお伺いします。今年度理事長として過ごされた経験の中から、「是非これは小山田次年度理事長候補者に伝えたい！」ことがあれば教えてください。

**(比内)** とても大事な質問をありがとうございます。

小山田さんは私の知っている限り個人としてすごく能力のある方で、仕事はもちろん、文書作成や進捗管理、物理的なものづくりまで含めて色々とできる人です。

しかしながらご本人もご存じかと思いますが、自分が出て来ようとするのが為に、人に求めるハードルが非常に高い。

出来ないならば、こちらでやるからいいよと取り上げてしまう“傾向”があるかと思っています。

小山田さんも心がけているとは思いますが、待てるラインまでは待つてあげて欲しい。

細かいところまで修正してあげたい気持ちはすごくあると思うのですが、理事長の役割と言うのはそういうところではなくて、灯台として進むべき方向を示すこと、設計図を書いて施工管理をするのではなく、仕様書をつくるようなことではないかと思うのです。

また、この状況だからこれをやめておこうかではなく、こういう状況だからこういう風にやってみよう、とモチベーションや意識を高めていくも大事な役割です。

逆に修正や間違いを正すのは、専務理事や副理事長など周りに任せ、そういう役割分担をしっかりと果たしていくと弘前青年会議所は一体感が高まっていきますし、そうして小山田さんの示す方向へと行動していった結果、この弘前という地域は少しずつでも良くなると私は信じています。

進むべき方向を考えることや決断は理事長の重要な役割だからこそ、来年は直前理事長として小山田さんを応援していきます。

**Q8:**最後に今年度理事長として、また、次年度理事長候補者として、お二人からメッセージをお願いします。

**(比内)** 弘前青年会議所がどのような団体か、知ってもらえる、関心を持ってもらえるように頑張りましょう。

会員自身、自分の所属している委員会以外がどんな状況かわからない、ということが毎年ある気がします。

情報の共有不足があるなら改善する必要があるのは事実です。

ただその一方で、知らされるのを待っているのではなく興味関心をもって、声をかけてほしい。お客様ではなく、同じメンバーなの

です。

また世間一般からすると、知らない人は全く知らない団体ですし、商工会議所と青年会議所の違いも知られていないというのが残念ながら現状だと思います。

実はよく卒業されたOBの方から現役は何をやっているの?と聞かれます。

一般の方と比較するとOBは青年会議所をよく知っていて、今誰がいるのかも大体知っているのに、今現役が何をしているか分からない。

それは私たち現役の会員がどれだけ情報の発信が出来ていないかを意味しています。

おそらく発信しているつもり、で終わっている事がすごくあるのでしょうか。

だからこそこれまで以上に、あるいはこれまでとは違う方法で発信していく必要があります。

どんなに良い事をして知られていないのでは、効果がすごく限定的になってしまいます。

私たちの存在や活動内容を知っていた上で、良い事をして頂いているなら応援して欲しいなと思います。

それは協賛をして欲しいとか会員になって欲しいとかいうことではなく、青年会議所の事業に参加してみるとか、

SNSでシェアしてみるなどお互い良い方向を向いていければより良くこの地域は変わって行くのではないかと思います。

と、いうわけで内に外に、情報発信していきましょう!

**(小山田)** 会員みなさんに、まず凛々とした勇気と自信を持ってJC活動をして欲しいということです。

忙しいとか辛いとかネガティブな気持ちが姿に現れているのであれば、それを見て新入会員になりたいと思う人なんていませんし、理事役員がそのような姿をしていたら、担い手なんていなくなってしまいます。ぜひ凛々とした勇気と自信を持って活動している姿を見せ付けてほしいと思っています。

辛いことがあったとしても良いことも沢山あって成長したなと思えて欲しいし、堂々としてもらえたらいいなと思います。

また、なかなか活動に参加出来ずにいる会員の存在も勿体ないと思います。新規会員を増やすことも大切ですが、今いる会員に参加していただく事も必要だと思います。

よくJCは機会の提供といわれますが、やはり会社で自分の仕事をしているだけでは出会えない機会がLOMにもブロックにも日本にもたくさんあります。

そのような機会にぜひ臨んで頂いて、そして変化に応じて頂く、それが成長につながると思いますので、ぜひ臨機応変にJC活動に参加して頂きたいと思っています。



# 運動報告

## 5月例会



5月17日(日)に相馬昴農園にて5月例会「農業で絆を深めよう」を開催致しました。農業を通じて会員同士の絆を更に強めることを目的としており、また、家族例会とすることで、家族にJCをより理解してもらう機会としました。コロナ禍ではありましたが、野外での作業がメインであった為、三密を避け開催致しました。整地や野菜植付など初体験の会員や会員家族も多く、皆で協力し合うことで、より関係が深まったと実感しました。



## 6月例会



6月8日(月)、ホテルニューキャッスルで6月例会「創立70周年に向けて」を開催しました。感染症の影響を考慮し、会場での参加とWEB上からの参加を組み合わせたハイブリット形式で行いました。

本例会では2021年度の理事候補者を選出する選挙を行うとともに、来年迎える弘前青年会議所創立70周年に向けて、創立から燈々無尽に紡がれてきた歴史と、創立60周年長期ビジョンから10年の運動を振り返りました。



## 7月例会



7月7日(火)、ホテルニューキャッスルで7月例会「育成スキルを身につけ資質向上を目指す」を開催しました。「人材の育成」にスポットを当てた当例会では、弘前JCのOBである樋川新一先輩を講師にお招きし、自身が育成に携わるようになったきっかけや体験談、失敗や成功から得た思考の変化や、今の仕事にける想い、現役会員への熱いメッセージを沢山いただきました。

新しい気づきを得た参加者も多く、今後のJC活動に役立てる例会になりました。



## 9月例会



9月7日(月)、ホテルニューキャッスルで9月例会「JAYCEEとしての目的と選択～未来のために～」を開催しました。公益社団法人日本青年会議所の賛助企業であるアチーブメント㈱から講師を招き、日々の行動の目的に向き合いました。JC活動を行う目的や、地域のために何ができ、何をしたいのか、忘れていたことや改めて気付いたこと、様々な意見が参加者から飛び交いました。この学びを活かし、これからも地域のために活動してまいります。



## 10月例会

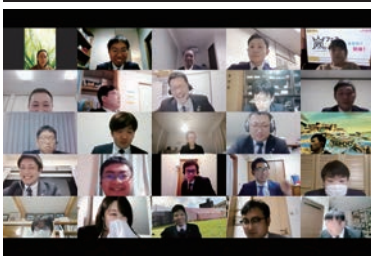


10月7日(水)、かだれ横丁ホールにて10月例会「大発見! 実はすごいぞeスポーツ」を開催しました。感染症対策をしっかりと行い会場とWEB(ZOOM)併用のハイブリット形式で実施致しました。

弘前JCとしては、初めてeスポーツという新たな分野を取り上げ、とても多くのことを学ぶことが出来ました。また懇親会では、ゲーム大会に加え最新鋭のVR機器体験を行うなど、大変有意義な時間を過ごす事ができました。



## 11月例会



11月9日(月)にZOOMにて11月例会「アンカー～未来へつなぐバトン～」を開催しました。

WEB会議アプリの機能を活用し、今年の会員研修で学んだことを振り返りました。また、自身の強みについて意見交換をし、周りからどう見られているのか知る機会にもなりました。アンカーには様々な意味があり、「最後」「支え」といった意味もあります。今後地域のリーダーとしてどのような行動をしていくのか、行動の支えとなる思いを未来の自分に向けて宣言し、今年最後の例会を締めくくりました。



## 新人研修「SGU（新人会員Grow up）大作戦!!」



9月22日（火・祝）、弘前総合学習センターで新人研修「SGU（新人会員Grow up）大作戦!!」を開催しました。入会3年以内の会員を対象に、我々青年会議所が地域にとってどのような役割を担っているのかを一日掛けて学びました。青年会議所が私たち自身の成長の場であることを認識するとともに、地域の課題を考え、課題解決の方法を参加者で話し合う場となりました。若い会員今後の活動にご期待ください。



## SAVE THE KIDSプロジェクト マスク・物品シェアリング事業



5月27日（水）～6月20日（土）に、新型コロナウイルス対策事業として、市内の3歳以上の未就学児へ「たか丸くんマスクキット」を配布しました。8月5日（水）には、たか丸くんシールを貼りながら、子供たちが楽しく手洗いがいを習慣化できるよう「たか丸くんうちわ」を作成し消毒液・ハンドソープと一緒に配布し、大変喜んでいただけました。

5月15日（金）～9月30日（水）の期間中、企業・市民の皆様から物品寄付等を募り、教育委員会へ消毒液の寄付も行いました。



## SAVE THE KIDSプロジェクト ストレスケア事業



9月20日（日）に、弘前環境パートナーシップ21、スポネット弘前の皆様と連携し弘前だんぶり池にて「あつまれ!だんぶりの森」を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大の中で親子が抱えたストレスのケアを目的として、3歳から小学生の子供と保護者を対象に行いました。親子で生き物を捕まえたり、観察したり、水鉄砲のゲームをする中で「今年で一番楽しかった!」「大人も本当に楽しめました」と温かい感想をいただきました。



## オンラインで家族と繋がろう!プロジェクト事業



7月17日（金）から9月30日（水）までオンラインで家族と繋がろう!プロジェクトを行いました。弘前市内高齢者施設を対象とした当プロジェクトでは9月17日（木）にZoomとiPadの操作勉強会を実施後、入居者と家族がオンラインで面会できるようにサポートさせて頂きました。

結果3施設に参加頂き、合計延べ55組のオンライン面会のサポートをする事ができました!ご参加ご協力頂いた皆様ありがとうございました。



## みどりの種事業



5月5日（火）～10月10日（土）まで、青少年事業としてみどりの種プロジェクトを行いました。内容は子供たちが食の大切さを学びながら、貧困や飢餓などの世界的な課題に対して積極的に行動できるようになることを目的として、農園にて野菜の栽培に挑戦しました。またコロナ禍で毎回参加できないことも想定して、各家庭で毛豆のプランタ栽培にも取り組みました。最後には収穫物を配布しながら、チャリティー募金活動を行い、義援金を日本赤十字社に寄付しました。子供たちが回を重ねるごとに積極的になっていく成長ぶりを感じることができました。



## ヒロサキクエスト事業



10月17日（土）～11月22日（日）の約一ヶ月間、新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ地域経済を盛り上げるために、販売促進事業として『ヒロサキクエスト』を実施いたしました。

お買い物をした金額に応じポイントを集めるHP（ヒロサキポイント）、お店をめぐりポイント集めるMP（めぐりポイント）この二つのポイントで11月21～22日の二日間にわたり抽選会を行いました。



# 2020年度卒業生からのメッセージ



**猪股 裕一 君**  
(いのまた ゆういち)

平成から令和へ変わった昨年5月、友人から電話がきました。入会の誘いでした。39歳の自分を誘うなんてよほど困っているのか。面白い人に出会えるかもと軽い気持ちで入会しました。軽い気持ちで引き受けた委員長は…大変でした(笑) みなさんありがとう!!



**大湯 幸世 君**  
(おおゆ こうせい)

遂に、とうとう、卒業。早いもので10年程所属し公私ともに怒涛・激動・波乱と共に過ぎた30代。そんな中でもJCでの様々な経験・体験・そして機会とはとても貴重であったと卒業を迎える今まさに感じています。おかげさまで30代は良かったと思える40代になれるそうです。感謝!!!



**大場 一巧 君**  
(おおば かずよし)

卒業を迎え思う事は6年間のJCライフは沢山の楽しいこと苦しいことがありましたがJCの一員になれて幸せでした。そして一言JCは在籍した期間の長短に関係なくどれだけ深く関わったかだと思えます。JCは誰にでも手を差し伸べ、機会も沢山あります。ただそこから先に行くには自分自身で一歩踏み出さなければいけないと思います。後悔のない卒業を迎える為に



**工藤 順敬 君**  
(くどう まさたか)

10年間在籍しましたがとうとう卒業になりました。現役メンバーとして来からは京都会議や全国大会、全国城下町シンポジウム、サマーコンファレンスにも行けません。ちょっと寂しいですね。楽しかったり、辛かったり、怒られたり、理不尽だったり色々ありましたが、青年会議所活動、運動は自分の成長に繋がりました。JCほんまにありがとう。



**工藤 靖史 君**  
(くどう やすし)

約4年半の間、弘前青年会議所に在籍させていただきました。また理事者の方も3度経験させてもらえる機会を与えて貰い、仕事に活かせるような事もたくさん得る事が出来ました。そして何よりもかけがえのない仲間がたくさん出来た事に感謝しています。本当にありがとうございました。



**須藤 立也 君**  
(すとう たつや)

13年間、大変お世話になりました。また、理事長職を務めさせていただいた際、理事メンバーはじめ皆さんの支えなくして、その職務を全うする事は出来ませんでした。本当にありがとうございました。



**野宮 智之 君**  
(のみや ともゆき)

思い出せば27歳位から13年もいたんだなあと思ひ、色々な事を学びました。その中でも印象にあるのが、入ったから必ずしもプラスになるわけじゃない、プラスにするのは自分次第という事も学びました。1番の財産は人脈だとゆう事も学びました。JCに入れて良かったなとつくづく感じます^\_^



**福士 蔵 君**  
(ふくし おさむ)

多くの方々との出会い貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございます。これを糧に今後邁進してまいります。伊能忠敬が測量の勉強を始めた際に「いや、わしは51歳になったばかりだ」と言ったそうです。そうですね。私はまだ40歳です。



**三上 恵美 君**  
(みかみ えみ)

約3年のあっという間の短い期間でしたが、様々な経験をさせていただきました。あの時こうすれば良かった、など色々と思う事は多々ありますが、全てが学びになりました。本当に感謝しております。卒業生として、これからも弘前JCを応援します!ありがとうございました。



**三國 典央 君**  
(みくに のりちか)

2010年3月の入会から11年、沢山の機会を頂きました。感謝致します。活動そのものが危ぶまれる時代になるとは思いませんでしたが、いつの時代も道を拓くのは若輩と確信しています。後輩の皆様の更なる活躍を期待しています。

## 新入会員紹介



会員拡大委員会  
**米澤 裕太**  
(有)林塗料



総務広報委員会  
**高野 光**  
(有)東洋美装

**弘前青年会議所ではあなたの同世代が活躍しています。仲間とともに郷土を盛り上げませんか？**

2020年度会員拡大委員会は「70周年を70人」で迎えるべく、会員拡大活動を行っております。近年の会員減少傾向は、人口減少社会を反映してか特に顕著です。また、今回の新型コロナウイルス流行に伴う地域経済活動の停滞によって、状況はさらに厳しくなりつつあります。しかし、このような厳しい時代だからこそ、かけがえのない仲間との連携こそが事態を打破する近道であると信じています。寧ろ、今こそがJC運動を発信するべき時であると捉えて活動に邁進していく所存です。

ホームページはこちら



Facebookはこちら



Twitterはこちら

